

卵テンペラ絵具

「テンペラ」とは何か

細密な描写、色調の鮮やかさ、やわらいだ光沢……。テンペラで描かれた西洋の古い宗敎画などを見ると、油絵具とはまた違った魅力を感じます。一度はテンペラで描いてみたい、そう思っている人も多いのではないのでしょうか。テンペラは「テンペラー」というラテン語が語源。「正しく混合する」という意味ですが、今日の絵画界では「顔料を卵で練ってつくった絵具、およびそれを用いて描いた絵」の意味で使われています。接着成分に動物性タンパク質（主に卵や牛乳）を使った絵具で、油絵具が登場する以前は、絵具は全てテンペラでした。古典的なテンペラは卵黄と顔料と水を混ぜただけの簡単なものですが、15世紀頃から全卵に油、樹脂を添加し、色調に鮮やかさと深みを与える卵テンペラ絵具が主流になってきました。

卵テンペラ絵具のつくり方

卵テンペラ絵具をつくらせてみましょう。以下は、顔料を練るための卵メデイウムのつくり方です。

■処方

- 鶏卵(卵黄十卵白) 1容量
- サンシクンドリンシードオイル 1/2容量
- ダンマルワニス 1/2容量
- 食酢 小さじ1〜2杯(防腐剤として使用)
- 蓋付きビン 1
- ピーカー 1
- 攪拌棒 1

(1) 卵を卵黄と卵白に分け、卵黄をビンに、卵白をピーカーに入れます。(卵黄を包んでいる薄い膜と、カラザと呼ばれる白いひもを除去します。卵黄を手のにのせて左右に転がし、膜を指でつまんで、ピンを刺せば、膜を残して卵黄だけ分離できます)

- (2) ピーカーに入れた卵白を強く攪拌し放置します。
 - (3) ビンに入れた卵黄にサンシクンドリンシードオイルとダンマルワニスを注いで、さらに食酢を加え、蓋をして強く振ります。
 - (4) (2)の下澄み液を(3)のビンに入れて強く振ります。
- マヨネーズのようになったら、卵メデイウムのできあがりです。この卵メデイウムに、顔料、水(等倍〜倍量)を加えて、練り合わせたものが卵テンペラ絵具です。冷蔵庫で保存すれば、卵メデイウムは半年〜1年間くらい使用できます。

長所と短所、絵を描く楽しみ

卵テンペラ絵具にはいろいろな長所があります。①細密な描写がしやすい、②油分を含まない地塗りの上なら、簡単に手軽に描ける、③失敗した部分がスポンジで簡単に拭き取れる、④乾燥が早く何層も重ねられる、などです。その反面、決定的な短所もありました。それは、①グラデーションができない、②色調に濡れ色・透明感がない、③ワニス引きすると、白亜を代表とする体質顔料が透明になって下層の色調が透けてきたり、一部の顔料の用いられた箇所が妙に濃くなって、浮き出て目立ってしまう、全体のバルールを壊すことがある——ことです。

これらの短所を解決するために生まれたのが、油絵具でした。しかし、卵テンペラ絵具の欠点を克服するために、昔の画家たちはハッチングなどに、それまでなかった独創的な技法を生み出しました。素朴な味わいだけでなく、卵テンペラ絵具の制約を逆手にとり、新しい技法や表現を試みてみる。それも、油絵具が生まれる前にあったプリミティブな絵具、卵テンペラ絵具を使って描く楽しみですね。



サンシクンドリンシードオイル



ダンマルワニス

※参考資料:パンフレット「ホルベイン専門家用顔料とその素材」、[ホルベイン画用液マニュアル]、佐藤一郎著「絵画技術入門——テンペラ絵具と油絵具による混合技法」(美術出版社)など

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.0729 (85) 1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)



ホルベイン絵具